

NGV Information

天然ガス自動車

【発行】東邦ガス株式会社 都市エネルギー営業部 【制作協力】名古屋市環境局地域環境対策部大気環境対策課

環境デーなごや2015

「つながる人の輪 つなげる取り組み」と題した「環境デーなごや2015」中央行事が、平成27年9月19日(土)、名古屋市中区の久屋大通公園で開催されました。来場者総数は約14万人と大盛況でした。

会場となった久屋広場では、佐川急便さまの天然ガストラックが展示されました。佐川急便さまは、CO₂排出量削減に向けて1992年に電気自動車2台を初めて導入されて以来、1997年からは天然ガス自動車を積極的に導入されています。その後、天然ガス自動車フォーラムの研究会での「天然ガス自動

車の導入と環境への取り組み」と題した講演や、自家

用天然ガススタンドの建設など、着実に導入の推進を図られています。2015年3月現在SGホールディングスグループさま全体で4,022台、佐川急便さままで4,002台の天然ガストラックを保有されています。また、東邦ガス管内では、3営業所(名古屋営業所、豊田営業所、小牧営業所)に自家用天然ガススタンドを設置されています。



両会場には天然ガス自動車のゆるキャラ「ナチュラシくん」も登場しました。「ナチュラシくん」は、流水が溶けて住むところが無くなってしまわない様に、みんなにCO₂排出削減による地球温暖化防止をお願いに来たあざらしの男の子です。来場の子供たちが周りに集まり、人気でした。

第11回

みんなで学ぼう! トラックと交通安全・環境フェア



平成27年10月4日(日)、恒例の一般社団法人愛知県トラック協会主催「第11回みんなで学ぼう! トラックと交通安全・環境フェア」が、豊田スタジアムで開催されました。同フェアは体験型ゲームなどを通して、トラック輸送の役割や大切さ、さらに交通安全や環境保全を理解できるため、毎年多くの家族連れが訪れます。今年も10時の開

場前には入場を待つ長い列ができました。

会場では(有)ヤマコンさま(小牧市)の大型天然ガストラックが展示され、多くの来場者の注目を集めました。

天然ガス自動車は、これまで、CO₂とNO_xの排出が少なく、SO_xとPMをほとんど排出しないといった環境性能に注目が集まっていました。最近では、輸送用燃料の極端な石油依存(98%)からの脱却、エネルギーセキュリティ向上といった国土強靱化への貢献や、さらにはシェールガス革命による天然ガス価格低下への期待も高まっています。

天然ガス自動車普及戦略シンポジウム

立命館国際フォーラム 日本の生き残りをかけた次世代自動車普及戦略と世界の動向

日時 2015年9月4日(金) 13:30～17:30

主催 立命館大学 OIC 記念事業およびMOT10周年記念事業

国際カンファレンス実行委員会

天然ガス自動車は、シェールガス革命の後押しを受け今も世界で普及拡大を続けており、世界で実に2230万台と普及を続けています。今回は、イタリア、オランダ、タイのステークホルダーと国内政策決定に関わる主要メンバーを一堂に会し、マーケティングと国土強靱化を踏まえた次世代自動車の普及戦略について発表がありました。

世界の取り組みについて

まず最初に、環境ジャーナリストの村田佳壽子氏から、フランスとイタリアを取材した映像とトークで始まりました。フランスやイタリアの街中を走行する天然ガスバス、塵かき車、乗用車が多数映し出され、フランス北東部に位置するナンシーの街では、トラムに似た連結型の天然ガスバスを走らせている風景が紹介されました。トラムと比較して軌道や架線が不要なので、投資面でのメリットがあります。天然ガス自動車も普及するイタリア(89万台)とタイ(46万台)の状況についても、各国の来賓が登壇し紹介されました。



▲フランス・ナンシーの街を走行する連結バス

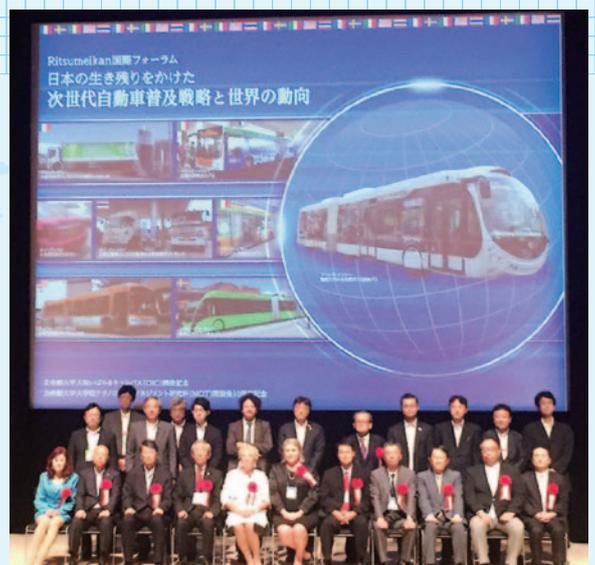
また、シェル・イースタン・ペトロリウム社ディレクターのジェン・カーランド氏からは、同社の天然ガス戦略の発表がありました。シェル社では、2016年にLNGトラック充填所を日本に建設し、LNGトラックの実証を計画しています。

国内の取り組みについて

国土交通省の持永大臣官房審議官

天然ガス自動車導入に向けた日本の取り組みの紹介がありました。

輸送燃料の多様性・輸送燃料としての天然ガスの優位性やエネルギーセキュリティにスポットを当て、埋蔵量飛躍、環境面、さらには大型天然ガストラックのランニングメリットについては、対ディーゼルより約20%安いと提言。また政府の方針の一部としてエネルギー基本計画、国土強靱化アクションプラン、交通政策基本計画に天然ガス自動車を盛り込んでいることについても報告がなされました。



▲講演者の集合写真

東京工業大学ソリューション研究機構の金谷特任教授

国土強靱化とレジリエンスステーションについて発表があり、東日本大震災時の天然ガススタンドの営業維持とそれによる天然ガス自動車の利用台数が約20%増加したことなど、震災等における天然ガス自動車の優位性の発表がありました。

最後に、早稲田大学マーケティング・コミュニケーション所長の恩蔵教授より総括がなされ、各国の普及に対する施策や活動を踏まえた日本の抱える普及課題への対応を提言されました。行政については、長期的な方針に基づく戦略を軸とした効果的な優遇施策の実施。関連企業においては、天然ガスの持つ健康や環境性の高さを意識した積極的な取り組みと最新技術への取り組み。国民については、理解と世論による後押しが必要と述べられ、本シンポジウムを締めくくりました。



▲総括をされる早稲田大学の恩蔵教授

都市ガス3社の

「大型天然ガストラック用相互利用充填カード」 運用開始のお知らせ

東邦ガス・東京ガス・大阪ガスは、1枚のカードで3社の指定するスタンドがご利用可能な「相互利用充填カード」の運用を9月10日より開始しました。

このカードは、大型天然ガストラック専用ですが、東邦ガス、東京ガス、大阪ガスの各スタンドをご利用になるお客さまのご希望により発行させていただきますので是非ご利用ください。

- ※お申込み契約は上記ガス3社と個別に交わしていただきます。
- ※給ガス料金の単価はガス会社毎に違い、ご利用になった料金は各ガス会社から請求させていただきます。
- ※大型天然ガストラックが利用可能なスタンドについては、上記ガス3社にお問合せください。



東邦ガスが発行するカード(金色)



東京ガスが発行するカード(緑色)



大阪ガスが発行するカード(青色)



当社管内でのカード発行第一号の (有)ヤマコンさま(小牧市)です。

毎日大阪と小牧を往復していますが、急にルートが変更になった場合や、点検などによりスタンドが利用できない場合など、荷下ろし先でも利用できることは大きな安心感につながる。大型トラックによるスタンド利用には制約もあるが、利便性の向上につながる取り組みはありがたい。

とのコメントでした。



山田社長と相互利用充填カード

港明用地開発における新たなまちの名称が「みなとアクルス」に決定

エコ・ステーションも新たに建設します!!

東邦ガスグループは、三井不動産グループさまと共同で、名古屋市港区で新たなまちづくりを進めています。開発コンセプト「人と環境と地域のつながりを育むまち」の具現化に向け、まちの名称を「みなとアクルス*」としました。

「みなとアクルス」では、まち全体に一体感をもたせ、地域の皆さまや来訪者が憩い、交流できる、緑豊かな都市空間を創出します。また、電気・熱・情報のネットワークを備えた「スマートタウン」を構築、さらに災害時でもエリア内でのエネルギー供給を継続するとともに地域の防災活動を支援します。

エリアは4つのゾーンで構成します。第Ⅰ期開発については、平成28年春～29年にかけて、順次各施設の竣工・開業を予定しています。

この再開発に合わせて、水素・天然ガス・LPガススタンドと三燃料一体運用のエコ・ステーションを建設します。市販の燃料電池自動車への充電が可能な商用の水素ステーションに加え、大型路線バスや大型トラックに充電可能な天然ガススタンド、および地域のタクシーの充電拠点となるLPガススタンドも新設します。オープンは、2016年上半期中を予定しています。新しくなるエコ・ステーションにご期待ください。

※「みなとアクルス」は、「AQUA」「LINK」「SMART」の文字から「AQULS」と名付けました。歩くたびにみずみずしい出会いが広がり、みなで次の未来を育てるまちをイメージしています。

- AQUA** 運河・自然に親しみ、こころ潤うまち
- LINK** 人と人、人と地域をつなぐ、笑顔咲くまち
- SMART** スマートエネルギーを実現し、進化するまち



エコ・ステーション完成予想イメージ



再開発全体の完成予想イメージ(敷地東側からの俯瞰図)



AQULSの『Q』にアクセントを置いたデザインは、開発コンセプトである「人」「環境」「地域」のつながりを表す弧が関係しあい、豊かな未来を織り成していくイメージと、港・運河を表しています。

そして『Q』には未来をひらく扉など、先進的なまちづくりへの思いを込めました。

天然ガス自動車に関するお問い合わせ

東邦ガス(株) 都市エネルギー営業部 営業第三グループ(天然ガス自動車担当)
〒456-8511 名古屋市熱田区桜田町19-18 TEL 052-872-9356 FAX 052-881-0008

